

水俣へ調査団派遣を

水俣滞在の オランダ人 ウ国連総長に要望

「国連が提唱する反公害闘争としての第三次世界大戦に参加しよう」と訴えるため、オランダから来日中の大学講師アンドレ・シュミットさん(四六)と幼児保育トニー・バン・デル・ハムさん(三三)は、十四日夜「国連は水俣病調査団を作って現地・水俣に派遣してほしい」など五つの要望を盛り込んだ電報をニューヨークのウ・タント国連事務総長あてに送った。シュミットさんらは同事務総長が昨年九月、国連の年次報告で「公害をつくり出すものに対して国際的な監視、協議、行動を結合し、この地球に住む人間の生命を守ろう」と訴えた公害防止声明に共鳴、公害追放の国際世論を盛り立てようと、ことし八月日本にやって来た。「国連の公害に対する宣戦布告に加わろう」と書いたポスターを東京、千葉の市民に配って訴えたあと、十二日から「公害の原点」水俣市に滞在。水俣病患者訴訟派代表の渡辺榮蔵さん宅に身を寄せて運動を進めている。

「国連が提唱する反公害闘争としての第三次世界大戦に参加しよう」と訴えるため、オランダから来日中の大学講師アンドレ・シュミットさん(四六)と幼児保育トニー・バン・デル・ハムさん(三三)は、十四日夜「国連は水俣病調査団を作って現地・水俣に派遣してほしい」など五つの要望を盛り込んだ電報をニューヨークのウ・タ



ウ・タント国連事務総長あての電文をタイプするアンドレ・シュミットさんとトニー・バン・デル・ハムさん